

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2270800036		
法人名	有限会社夢無限		
事業所名	グループホーム夢無限おおひと め組		
所在地	伊豆の国市田京929-5		
自己評価作成日	令和4年3月28日	評価結果市町村受理日	令和4年6月2日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

新型コロナウイルス感染症の流行拡大、緊急事態宣言や蔓延防止重点措置などの発令が続きホームより出かける事が出来ていない中、毎日ホーム周辺を外気浴や散歩に出かける事が出来ている。季節を感じたり、花や草木を見て話をしたり、神社にお参りしている。リハビリ体操や個別リハビリをし、体力維持を心がけている。入所前に趣味や行って来たことを継続してできるように取り入れている。リモートでの面会をしているが、直接の面会が禁止や制限で思うようにご家族と会って頂くことが出来ていないが、ホームでの生活や入居者様の様子をお伝え出来るようにとアルバム制作をしている(年3回送付)

**※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)**

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/227/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigvoCd=2270800036-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/227/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoCd=2270800036-00&ServiceCd=320&Type=search)

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地元の診療所を運営している法人が運営しているグループホームで、入居者の健康管理や往診なども行い、経営者はグループホームのあるべき姿を探究している。災害時の避難場所も診療所の近くに確保され、いざという時には避難できる体制づくりが整っている。消毒や換気、空気清浄機の稼働等コロナ対応は継続して徹底して行われている。最近、利用者や職員の入替えがあり、一人一人に対応し、ADLが下がらないような支援を目指している。職員の90%以上が介護福祉士の資格を所持し、日々アイデアをだし、委員会に所属して自主的に判断して動けるように心掛けている。コロナ禍で自由に施設の中が見学できないため、家族に理解してもらおうと利用者一人一人の写真付きのアルバムを作り、作品とともに家族に送っている。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 4月 13日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義を踏まえた理念を作り、玄関や各ユニットに掲示しミーティングで再確認しながら実践につなげている	事業所理念は玄関や事業所内に掲示し、朝ミーティングや毎月のミーティングで意見交換をして、出された意見はすぐに取り組み報告、改善をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩に出かけ近所の方達や子供たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。床屋、訪問歯科、食料の調達に地元を利用している	近隣の散歩の際に近所の方や子供たちから日常的な挨拶や会話が自然に行われ、更に季節の果物や野菜の差し入れを頂くなど良好な関係作りが構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の奉仕作業に参加したり挨拶や現状をお伝えし認知症やホームへの理解をお願いしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や地域包括へ報告させて頂いている。アドバイスなどももらい施設運営に役立っている	今年度は書面開催で6回行われている。議事録には入居状況や行事、利用者の様子載せて地域包括支援センター、民生委員、自治会長に送り報告している。	最近、利用者や職員の入れ替わりがあったので、家族や地域の方に議事録を送付し、運営推進会議のメンバーを増やせるよう工夫を行い、意見書を同封して意見の吸い上げを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状を報告し対処方法やアドバイスを頂き、時に話を聞いて頂き良き解決が出来るようにしている	包括支援センターとは入居者の紹介や相談にのってもらい、運営推進会議が開かれていた時には出席してもらい等協力関係ができています。行政とは災害について意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の進行により、危険・転倒のリスクの高い方にはご家族へ説明し又、聞き取りをし対応している。拘束が出来ないことへの理解もして頂いている。会議やリモートで研修に参加したり(全員)委員会にて、検討、周知をし情報共有に努めている	マニュアルは整備され、職員は常に閲覧できる。委員会は管理者、ケアマネジャー、各ユニットリーダーで構成されていて、毎月ケース検討を行い、出された内容の研修を研修委員が中心になって行っている。	

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を中心に勉強会を実施、又、コロナの状況で集まらない時は、朝のミーティングにて短時間で毎日勉強会をし全員に周知出来るようにしている。職員の意識向上情報交換、チームでの対応が出来るように心がけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネが中心となり必要に応じて話し合いをし活用できるように心がけている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネが中心となり情報共有、対策やケアの充実、理解を得るように心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を1つにし家族へ信頼を得るようにしているケアプランの説明やご家族へ連絡した際に要望を聞いたり、面会時に意見交換をしケアに反映するようにしている	コロナ禍でもZOOMの面会を継続して行っていた。現在は日に2組の予約制で感染対策をして、窓越しや玄関で面会を行っている。荷物を届けたときにも顔を見てもらったり、年に3回利用者の写真を載せたファイルを作品と一緒に家族に送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやユニット会議、委員会、各委員会などから職員の意見や提案を聞いている。管理者業務に入り問題解決している	朝の申し送りや月の会議では職員からの意見を聞く機会があり、管理者は介護職も兼任しているので職員に言葉かけをまめに行っている。職員は各委員会に所属していて、利用者のADLを下げないように自主的に考え行動している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議は中止になる事が多いが、訪問診察時に代表者と話す機会を持っている。他、本部へ常に報告ができる環境である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研究発表会など、中止となっているが小規模での勉強会を行っている。各施設内で研修を試みている		

静岡県(グループホーム夢無限おひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会などが中止となっはいるが、今後、回数を増やし、密にならずに出来るように取り組みをしている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、他施設からの情報をもとにコミュニケーションを取りながら傾聴し安心して生活出来るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報を職員同士共有しご本人の動向を観察しながらご家族の意見や要望を踏まえ良い関係、信頼関係が築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談等で得た除法を必要に応じて良いサービスが出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場という認識を忘れず個々に合った生活リハビリを取り入れ職員も一緒にやりがいがあるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの流行で面会や外出に制限がされているが窓越しに面会をして頂いたり、お便りを郵送したり面会時に近況を報告し理解をして頂いたり、皆で支えていくという姿勢のお願いをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの流行で制限があり出来ないことも多いが、窓越しの面会やリモート面会、携帯電話を利用している人は自由に話を出来るようにしている。本来はお墓参りや家族の行事、外出、外泊などは自由にして頂いていた。入居前の関係維持、継続を努めていた	ZOOM面会や窓越し面会を感染対策をして行っていて、関係が途切れないようにしている。電話や手紙の取次ぎも行い、利用者が作成した巾着や雑巾等を家族に送り、アルバムも家族以外の親せきが見て様子を把握している。	

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで談笑したり、気の合う方同士、居室の行ききやお話をされている。散歩やレクレーション、生活リハビリを一緒に行動するなど、関わられる環境作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設と情報交換をし、協力できることを支援している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とコミュニケーションを取りながら傾聴し、知り得た情報の共有をし良いケアにつなげていき、ケアプランに反映する	職員は居室担当制のため、担当する利用者の日常の様子をよく観察して、細かい変化や気づきを家族に話せるようにしている。また、部屋の整理整頓に気を配り、対応に戸惑う場合などは管理者に相談して取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に情報を得ている。入居後もご様子を報告しながら情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合った生活リハビリ、個別リハビリ、レクレーションを取り入れコミュニケーションを取りながら個々の現状把握をし、記録に残し共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーに相談したり、申し送りやユニット会議にてケアについて検討し、本人やご家族の要望も取り入れている	ユニットごとに職員が毎日個人データを記入してモニタリングに活かしている。カンファレンスは朝の申し送りや月の会議で話し合い、取り組めることは柔軟に試してみて管理者に報告している。管理者は職員の自主性を育てるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、記録、健康チェック表の記載により個別に状況が把握しやすいように、共有しやすいようにしている。ユニット会議にて再確認、検討している		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会議や研修(リモート研修含む)にて情報収集に努め、必要なサービスが出来るようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所からの情報を他施設、病院関係からも情報を得る。その人に合った生活が提供できるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設医の月2回の往診、希望により他科受診も可。施設医の紹介状似て受診しやすいようにしている必要に応じて職員も付き添い処置や指示に対応できるようにしている	法人経営の診療所による月2回の往診と週1回の訪問看護師の健康チェックがある。他科受診も医師の適切な指示で専門医への紹介を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時や電話連絡にて情報交換や相談をしアドバイスや情報の共有に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期発見に努めている。家族面談に同席したり、コロナウイルスの流行で面会禁止の時はリモート面談やご家族、相談員とも連絡を密にし適切な対応が出来るようにしている。認知症の理解もお願いしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の希望を聞き取り、重度になる前から必要に応じて話し合い施設医と連携し説明している。法人内の施設や病院へ転院も希望に応じて行っている	入居時に重度化した場合について、本人、家族に説明し同意を得ている。重度化の状態になると医師が家族に状況を説明し医師、家族、事業所で話し合い法人併設の施設や病院への転院を含め家族の意向に沿うように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成、防災訓練を定期的に行うようにしている		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成、防災訓練の実施、他事業所からの体制を整え台風、大雨時の避難を行っている。実施した内容もマニュアル作成し共有している	年2回 防災委員会が中心になり テーマを決めて訓練を実施している。訓練後は課題や問題点を出し、次回の訓練に活かすようにしている。台風や大雨の時避難することもあり、避難場所にも備蓄品を準備し、季節毎に点検している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員を設けお客様、先輩であるという事を、させて頂くという意識を持ち、言葉かけや対応をするよう心がけている。前準備をし速やかに対応をするよう努めている	接遇委員がテーマを決めて2ヶ月に一度研修を行い、アンケートを取っている。職員の入れ替わりがあったが、利用者に対する人格の尊重について理解され、言葉かけや対応に活かされている。本部より4年度は新しい接遇の研修方法が伝えられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の得意な分野、興味があることを行い自信を持ち楽しく生活できるように支援している。生活リハビリ、レクリエーション等で活躍できる場を持てるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし	無理強いせず、個々のペース、個々に合った言葉かけをし、傾聴するように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	愛用している化粧品、鏡、髭剃り、ブラシなどを居室に置きいつでも使用している。鏡台を持参している方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳前の準備、お茶、下膳、食器拭きなど、それぞれが関わられるように支援している	昼食のみ温める食材にし、朝、夕食は今まで通り、職員が献立を考え調理している。利用者も積極的に職員と共に食事の準備や片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態、食事は情報から個々に合った食事形態、量を提供している。必要な水分を接種しているか水分量も把握している		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の実施、義歯の洗浄、消毒。口腔セットや義歯入れ等、使用物品の消毒を実施している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位訓練、リハビリ体操、個別リハビリ等で筋力低下を防ぎ体力維持に努めている。排泄パターンを把握し、サインを見逃さないようにスムーズに排泄が出来るように努めている	リハビリ体操、散歩等で体力維持に努め 排泄パターンを把握し 日中はトイレでの排泄を支援している。夜間はオムツやポータブルトイレと個々の状況にあわせている。自立でトイレでの排泄ができる利用者には見守りをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、薬だけに頼らず、運動強化や三温糖やオリーブオイル、ヨーグルト等、食物からも予防出来るように努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず、週3回の入浴が出来るようにする。毎日入浴がある為、体調や希望により回数を決めずに入浴できるようにしている	週3回 午後入浴支援をしているが、毎日入浴する利用者もいる。拒否の強い利用者にはお気に入りの職員が対応したり、自分で入浴した日をカレンダーに○印をつける等 工夫して入浴支援をしている。ゆず、入浴剤も使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きなように居室に行ききされ休まれたり、1日1回は外気浴や散歩に出かける。午後からも散歩に出かけ、活気があり生活リズムを崩すことのないようにし、安眠のできるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の理解が出来るようにファイリングしている。変更がある時は情報共有し変更後の状態観察をし必要に応じて施設医に連絡し指示を仰ぐようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意な事をレクリエーションや生活リハビリに取り入れている。個々にノートやぬりえ、クロスワードパズルに本等を購入し楽しみを作ったり、ご家族からの希望などで本や嗜好品の購入をしている。送ってもらうこともある		



静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、外出支援などが自由に出来るようにご家族へも理解と協力を仰ぎ支援できるようにしている。コロナウイルスの流行で外出がままならないがドライブなどを戸外に出かけられるように支援している	施設周辺は自然豊かな山里で車の通りも少ない。天気の良い日は近くの神社へ散歩に出かけたり 庭に出ている。また 人出の少ない神社へお正月には初詣に出かけた。最近では 近くのコンビニまで車中ドライブやお花見と少しずつ楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に理解して頂き、安心感を得る目的でお金を所持している方もいる。買い物の際にご本人に支払いをして頂き、好きな物を購入出来るようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もおり充電や操作、電話が鳴っていることを伝えたりと支援している。年賀状が届いたり、荷物が届く方もおりお礼の電話をしたり、ハガキを出したりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所をわかりやすく表示したり、季節感ある生活が送れるように花や掲示物を制作している。換気加湿、除湿等に気を配り過ごしやすい環境作りをしている	感染症対策に注力し、換気、消毒を頻繁に行い 空気清浄機も利用している。居間には干支や季節の作品が掲示してある。また 家族に施設での暮らしの様子を知らせる記録を職員主導で制作し作品は利用者が手がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で好きなように過ごしたり、気の合う方同士を同テーブルにしたり会話やTV、DVD鑑賞を楽しめるようにしている。居室の行ききも自由にされお話をしていることもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用していた家具や日用品、写真等を持参してもらっている。衣類も馴染みのあるものや本人が作ったものを着用したり、安心と清潔が保てるように努めている	備え付けのクローゼットがあり、使いやすいタンスや衣装ケースに靴下やタオル等収納し自分で出し入れしている。テレビ、家族の写真や作品、位牌を持込み、本人が居心地の良い居室となるよう、支援している。清掃も職員と共にモップがけ、雑巾がけをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものは固定したり、片付けの徹底 環境整備に努めている。名前の記載や場所の表記を大きくわかりやすくする等をし洗濯物をたたんだり片付けたり、自分の部屋の拭き掃除をしたり出来ることをして頂いている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270800036		
法人名	有限会社夢無限		
事業所名	グループホーム夢無限おおひと い組		
所在地	伊豆の国市田京929-5		
自己評価作成日	令和4年3月28日	評価結果市町村受理日	令和4年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2270800036-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270800036-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 4月 13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症の流行拡大、緊急事態宣言や蔓延防止重点措置などの発令が続きホームより出かける事が出来ていない中、毎日ホーム周辺を外気浴や散歩に出かける事が出来ている。季節を感じたり、花や草木を見て話をしたり、神社にお参りしたりしている。個々にあった生活リハビリを取り入れ自分は必要とされていると感じて頂けるように努めている。体操や個別リハビリをし、体力維持も心がけている。入所までに行っていたことや、趣味なども継続して行ってもらい今まで出来ていたことが1日でも長く出来るように支援している。リモートでの面会は取り入れてはいるが、直接の面会も禁止や制限で思うようにご家族と会って頂くことが出来ていないが、ホームでの生活や入居者の様子をお伝え出来るようにとアルバム制作をしている(年3回送付)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義を踏まえた理念を作り、玄関や各ユニットに掲示しミーティングで再確認しながら実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた時には、近所の方々と挨拶を交わし、会話をし交流している。(距離をとっている)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外気浴や散歩にて近所の方々と会話したり、地域の奉仕作業に参加し交流のなかで認知症の理解をお願いしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や地域包括へ報告させて頂いている。アドバイスなどももらい施設運営に役立っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状を報告し対処方法やアドバイスを頂き、時に話を聞いて頂き良き解決が出来るようにしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の進行により、危険の理解できず転倒のリスクの高い方には医師からの説明、ご家族の希望等を聞き取り対応している。拘束が出来ないことへの理解もして頂いている。委員会を中心に会議や研修を行い、検討、周知している		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を中心に勉強会を実施、又、コロナの状況で集まらない時は、朝のミーティングにて短時間で毎日勉強会をし全員に周知出来るようにしている。職員の意識向上情報交換、チームでの対応が出来るように心がけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネが中心となり必要に応じて話し合いをし活用できるように心がけている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネが中心となり情報共有、対策やケアの充実、理解を得るように心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を1つにし家族へ信頼を得るようにしているケアプランの説明やご家族へ連絡した際に要望を聞いたり、面会時に意見交換をしケアに反映するようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやユニット会議、委員会、各委員会などから職員の意見や提案を聞いている。管理者業務に入り問題解決している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議は中止になる事が多いが、訪問診察時に代表者と話す機会を持っている。他、本部へ常に報告ができる環境である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会などが中止となっはいるが、今後、回数を増やし、密にならずに出来るように取り組みをしている		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会などが中止となつてはいるが、今後、回数を増やし、密にならずに出来るように取り組みをしている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に寄り添い、ケアを行う中で困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談で聞き取った中で困っている不安なことなどの情報を職員間で共有し、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談で必要としている支援を見極めケアに反映している。他のサービスも視野に入れた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、個々に合わせた生活リズムを通し役割を決め自分が必要とされているという気持ちを持つようになっている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通常、面会や外出を自由にして頂いており、他科受診への同行もして頂いていた。現在はコロナウイルスの流行で職員が代行したりとご家族と相談し対応している。リモート面会の実施や電話で近況を報告し現状の理解をして頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通常、外泊、外出を自由にして頂いている。自宅に行かれたり、外食、お墓参り等入所前の関係継続に努めている現在はコロナウイルスの流行で控えている		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活リハビリ、レクリエーション等を行い、利用者同士の関わり合い、支え合いが出来るように支援している。職員も参加し環境作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設と情報交換、訪問したり、退所されても連絡を取れるようにしており、相談もして頂いている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のケアより会話から得た情報や表情の変化を見逃さず記録に残し支援に取り入れている。ケアプランへも反映している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に情報を得ている。入居後もご様子を報告しながら情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアにて新しい気づきがあればその情報交換、共有し、記録に残し支援につなげている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの聞き取り、ケアマネジャーを中心に担当者会議やミーティングからケアの検討、見直しをし現状に即した介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入、健康チェック表へは病状の記録をし把握、共有する。フロア会議で再確認している		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会議や研修(リモート研修含む)にて情報収集に努め、必要なサービスが出来るようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所からの情報を他施設、病院関係からも情報を得る。その人に合った生活が提供できるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設医の月2回の訪問。希望により他科受診可。施設医の紹介状にて受診しやすいようにしている。必要に応じて職員も付き添い処置や医師の指示に適切な対応ができるようにしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時や電話連絡にて情報交換や相談をしアドバイスや情報の共有に努め、看護師にも直接ケアして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期発見に努め、施設医と連携している。入院先の病院での家族面談等に同席し情報交換を行っていたが、現在は電話、リモートでの情報が多くなっている。相談員とも連絡を密にし適切な対応ができるようにしている。認知症の理解もお願いしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の希望を聞き取り、重度になる前から必要に応じて話し合い施設医と連携し説明している。法人内の施設や病院へ転院も希望に応じて行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練、マニュアル作成、研修を行っている		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成、昼夜を想定した防災訓練の実施。他事業所からの協力体制を整え、台風、大雨時の避難を行っている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの理解度に合わせ、プライド、尊厳を損なわない言葉かけや対応に努めている。特に排泄時の言葉かけには特に注意し周囲に気づかれないように配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活リハビリ、レクリエーション等その人の思いや希望に即した役割を決め、活躍できるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言葉にも耳を傾け、可能な限りレクリエーションに反映したり、個別に対応できるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	愛用している化粧品、鏡、髭剃り、ブラシなどを居室に置きいつでも使用できるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や下膳、食器の片付けを行ってもらっている。献立作りに利用者の希望を取り入れることもしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態、食事は情報から個々に合った食事形態、量を提供している。必要な水分を接種しているか水分量も把握している		



静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の実施、義歯の洗浄、消毒。口腔セットや義歯入れ等、使用物品の消毒を実施している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位訓練、リハビリ体操、個別リハビリ等で筋力低下を防ぎ体力維持に努めている。排泄パターンを把握し、サインを見逃さないようにスムーズに排泄が出来るように努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、薬だけに頼らず、運動強化や三温糖やオリーブオイル、ヨーグルト等、食物からも予防出来るように努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず、週3回の入浴が出来るようにする。毎日入浴がある為、体調や希望により回数を決めずに入浴できるようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きなように居室に行ききされ休まれたり、1日1回は外気浴や散歩に出かける。午後からも散歩に出かけ、活気があり生活リズムを崩すことのないようにし、安眠のできるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の理解が出来るようにファイリングしている。変更がある時は情報共有し変更後の状態観察をし必要に応じて施設医に連絡し指示を仰ぐようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意な事をレクリエーションや生活リハビリに取り入れている。個々にノートやぬりえ、クロスワードパズルに本等を購入し楽しみを作ったり、ご家族からの希望などで本や嗜好品の購入をしている。送ってもらうこともある		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、外出支援などが自由に出来るようにご家族へも理解と協力を仰ぎ支援できるようにしている。コロナウイルスの流行で外出がままならないがドライブなどをし戸外に出かけられるように支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に理解して頂き、安心感を得る目的でお金を所持している方もいる。買い物の際にご本人に支払いをして頂き、好きな物を購入出来るようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もおり充電や操作、電話が鳴っていることを伝えたりと支援している。年賀状が届いたり、ハガキを出したりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所をわかりやすく表示したり、季節感ある生活が送れるように花や掲示物を制作している。換気加湿、除湿等に気を配り過ごしやすい環境作りをしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で好きなように過ごしたり、気の合う方同士を同テーブルにしたり会話やTV、DVD鑑賞を楽しめるようにしている。居室の行ききも自由にされ遊びに行きお話をしていることもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用していた家具や日用品、写真等を持参してもらっている。衣類も馴染みのあるものや本人が作ったものを着用したり、安心と清潔が保てるように努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものは固定したり、片付けの徹底 環境整備に努めている。名前の記載や場所の表記を大きくわかりやすくする等をし洗濯物をたたんだり片付けたり、自分の部屋の拭き掃除をしたり出来ることをして頂いている		